

# 教育研究業績書

2017年10月20日

所属：教育学科

資格：講師

氏名：宇野 里砂

研究分野	研究内容のキーワード
小児神経学、特別支援教育	特別支援教育、障害児医療、医療的ケア、運動発達遅滞、発達障害
学位	最終学歴
医学博士	大阪大学大学院 医学系研究科 神経生理学 博士課程卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. Power Point・動画を活用した授業	2014年～現在	
2. Power Pointを活用した授業	2010年2011年	
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 大阪行岡医療大学（非常勤講師）	2017年09月～現在	理学療法学科「発達障害論」
2. 兵庫県立大学看護学部（非常勤講師）	2017年04月～現在	「学校保健」（オムニバス）
3. 平成27年度「兵庫県子育て支援員研修（放課後児童コース）専門研修」講師	2016年	「子どもの生活面における対応」
4. 平成28年度「兵庫県子育て支援員研修（地域保育コース）専門研修」講師	2016年～現在	「心肺蘇生法」
5. 梅花女子大学（非常勤講師）	2015年04月～現在	「重複障害・LD等の心理・生理・病理」「知的障害の心理・生理・病理」（オムニバス）
6. 教員免許状更新講習「時代に向き合う教師力開発（主として幼小教員対象）」	2015年～現在	
7. 兵庫県放課後児童支援事業「放課後児童支援員認定資格研修」	2015年～現在	「子どもの生活面における対応」
8. 滋賀医療技術専門学校（非常勤講師）	2010年2011年	理学療法学科・作業療法学科「小児科学」
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 小児慢性特定疾病指定医（豊中市）	2015年	
2. 日本小児科医学会認定「子どもの心」相談医	2013年	
3. 産科医療補償制度診断医	2012年	
4. 障害者福祉法第15条第1項に規定する医師の指定	2010年	
5. 周産期・新生児医学会新生児蘇生法一次コース認定医	2009年	
6. 日本医師会認定産業医	2008年	
7. 大阪府医師会指定学校医	2008年	
8. 指定自立支援医療機関指定医	2008年	
9. 医師免許	1993年	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. ボイタ法Bコース修了	2016年	
2. PEARS Provider	2016年	
3. ボイタ法Aコース修了	2013年	
4. 第3回医師のための母乳育児支援セミナー修了	2007年	
5. ボトックス注100講習・実技セミナー修了	2007年	
6. ボイタ法医師講習会（診断編）修了	2007年	
7. ボイタ法医師講習会（治療編）修了	2006年	
8. ボバースコンセプト医師講習会修了	2005年	
<b>4 その他</b>		
1. 大阪府立茨木支援学校 医師講師	2016年04月～現在	
2. 吹田保健所非常勤医師	2014年04月～現在	
3. 豊中市立しいの実学園小児科非常勤医師	2014年04月～現在	
4. 豊中市保健所非常勤医師	2014年04月～現在	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 障害児保育	共	2018年04月 刊行予定	晃洋書房	鶴宏史編著。 以下を執筆した。 第2部2章「肢体不自由児の理解と援助」 第2部8章「重症心身障害児の理解と援助」 第2部9章「併発しやすい疾病」 第7部2章「保健・医療における現状と課題」
2. 発達障害事典	共	2016年10月	丸善出版 日本LD学会編集	分担執筆。 発達障害の病因や薬効などの理解のために、以下を執筆した。 「神経系機能の発達」 「神経伝達物質」
3. 障害を持つ子どもたちのよりよい生活のために（改訂版）	共	2016年04月	大阪小児科医会	荒井洋，今石秀則，宇野里砂，柏木充，九鬼一郎，島川修一，田川哲三，田邊卓也，鳥邊泰久，永井利三郎，西田勝，最上友紀子。 肢体不自由児・発達障害児・発達遅滞児の医療・教育・福祉に関して、以下を執筆した。 「(1)身体と心の発達に関する問題—発達がおかしいと思ったときに」 「(3)福祉サービスの実際」 「(4)医療機関、教育機関について」
4. 障害児通所支援従事者ファーストステップ研修マニュアル作成および実施検証に関する研究：平成27年度総括・分担研究報告書：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野））	共	2016年03月		宇野里砂，永井利三郎，小野次朗。 障害児通所支援従事者に向けて、肢体不自由児および重症心身障害児に接するための研修マニュアルを作成した。
5. 教育学科への招待	共	2015年04月	武庫川女子大学出版部	PART II「08障害児医療と教育」P.72-75. 肢体不自由児や発達障害児の運動や姿勢のパターンについて概説し、気になる子どもに出会ったときの対応について述べた。
<b>2 学位論文</b>				
1. 幼若ラット大脳視覚野における垂直及び水平シナプス伝達に対する脳由来神経栄養因子の選択的作用 Selective Action of Brain-Derived Neurotrophic Factor on Vertical and Horizontal Synaptic Transmission in the Developing Visual Cortex of the Rat.	単	2000年03月	大阪大学医学雑誌 52(3/4): 111-118	脳由来神経栄養因子は生後発達期の大脳視覚野において、シナプス長期増強に関与しており、可塑的変化の素過程と考えられている。ホールセルパッチクランプ電極法を用いて、脳由来神経栄養因子は垂直方向のシナプス結合に選択的に作用していることを明らかにし、これにより、生後初期の大脳皮質におけるカラム形成の強化に関与していることが示唆された。
<b>3 学術論文</b>				
1. 特別支援学校教育実習指導の提言と展望 Issues and prospects in designs of special needs education school teaching practices	共	2017年（投稿中）	学校教育センター年報，第3号，武庫川女子大学	中村明美，高井弘弥，橋詰和也，宇野里砂。
2. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2016年10月	日本小児科医会会報. 52: 113	柏木充，荒井洋，宇野里砂，九鬼一郎，島川修一，田川哲三，田邊卓也，鳥邊泰久，永井利三郎，最上友紀子。 てんかんは肢体不自由児、知的障害や発達障害をもつ子どもたちに合併しやすい疾患である。小児期発症のてんかんでは、成人期以降も治療が必要な場合がある。成人への移行における患者側の希望や必要を調査し、適切なてんかん診療体制を築くための課題を検討した。
3. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2016年07月	脳と発達，48(4): 271-276	柏木充，荒井洋，宇野里砂，九鬼一郎，島川修一，田川哲三，田邊卓也，鳥邊泰久，永井利三郎，最上友紀子。 てんかんは肢体不自由児、知的障害や発達障害をもつ子どもたちに合併しやすい疾患である。小児期発症のてんかんでは、成人期以降も治療が必要な場合がある。成人への移行における患者側の希望や必要を調査し、適切なてんかん診療体制を築くための課題を検討した。
4. 後天性脳損傷を認める学童の生活実態に関するアンケート調査（第1報）	共	2016年02月	日本小児科学会雑誌，120(2): 230	九鬼一郎，荒井洋，宇野里砂，柏木充，島川修一，田川哲三，田邊卓也，鳥邊泰久，永井利三郎，最上友紀子。 外傷性脳損傷、けいれん重積性脳症など後天性脳損傷後に、生活や学習において困りごとのある小児の生活実態についてアンケート調査し報告した。後天性脳損傷による高次脳機能障害では、記憶障害や視覚認知障害など多岐にわたる生活上の困りごとが起りうる。発達障害と類似した特徴もあるが後天性であることなどから周囲の気づきや理解を得られにくいこともある。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
5. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2014年05月	脳と発達. 46(Suppl.): S323	柏木充, 荒井洋, 宇野里砂, 九鬼一郎, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 鳥邊泰久, 永井利三郎, 最上友紀子. てんかんは肢体不自由児、知的障害や発達障害をもつ子どもたちに合併しやすい疾患である。小児期発症のてんかんでは、成人期以降も治療が必要な場合がある。成人への移行における患者側の希望や必要を調査し、適切なてんかん診療体制を築くための課題を検討した。
6. 病院における障がいをもつ子どものレスパイト入院についての検討	共	2014年02月	日本小児科学会雑誌. 118(2): 239	鳥邊泰久, 荒井洋, 今石秀則, 宇野里砂, 柏木充, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 永井利三郎, 西田勝. 大阪府救急告知病院リストより小児の入院病床をもつ61病院を選定し、平成24年10月に15項目にわたるアンケート調査を行い、肢体不自由児・重症心身障碍児の小児在宅医療の現状について分析し報告した。
7. 在宅小児医療に取り組む(その9) 病院における障がいをもつ子どものレスパイト入院についての検討	共	2014年01月	大阪小児科医会会報 168(2014):39-44	鳥邊泰久, 荒井洋, 今石秀則, 宇野里砂, 柏木充, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 永井利三郎, 西田勝. 大阪府救急告知病院リストより小児の入院病床をもつ61病院を選定し、平成24年10月に15項目にわたるアンケート調査を行い、肢体不自由児・重症心身障碍児の小児在宅医療の現状について分析し報告した。レスパイト入院を行ううえでの問題点をまとめて報告した。
8. 幼児期の発達障害児をもつ親のストレス評価	共	2012年	脳と発達 44(suppl): S357	島川修一, 田邊卓也, 九鬼一郎, 柏木充, 宇野里砂, 鳥邊泰久, 荒井洋, 田川哲三, 今石秀則, 永井利三郎, 西田勝. 発達障害の幼児の生活上の困りごとについて、母親と父親とに同時にアンケートを実施し、必要なサポートについて検討した。
9. Survey of Japanese pediatricians on vaccination of children with neurological disorders.	共	2011年10月	Pediatr. Int. 53(5): 626-9 (査読有)	Tanabe T., Tagawa T., Arai H., Imaishi H., Uno L., Tanaka J., Nagai T., Nishida M., Awaya Y., Maekawa K. 肢体不自由や知的障害、発達障害を含む神経疾患をもつ子どもでは、感染症を予防することの重要性に反して、予防接種による副反応への懸念から接種を差し控えるケースがみられることから、保護者へのアンケート調査を行い、実態を調査した。
10. 神経疾患をもつ児の保護者に対する予防接種アンケート	共	2007年	脳と発達 39(suppl):S5207	田邊卓也, 田川哲三, 荒井洋, 今石秀則, 今北優子, 宇野里砂, 田中順子, 谷池雅子, 永井利三郎, 藪田玲子, 西田勝, 栗屋豊, 前川喜平. 肢体不自由や知的障害、発達障害を含む神経疾患をもつ子どもでは、感染症を予防することの重要性に反して、予防接種による副反応への懸念から接種を差し控えるケースがみられることから、保護者へのアンケート調査を行い、実態を調査した。
11. Quantal analysis suggests presynaptic involvement in expression of neocortical short- and long-term depression.	共	1997年07月	Neuroscience 79(2):317-21 (査読有)	Torii, N., Tsumoto, T., Uno, L., Astrelin, A.V., Voronin, L.L.
12. Vitamin B6大量療法が著効した点頭てんかんの2例	共	1995年06月	大阪てんかん研究会雑誌. 6(1):41-46	宇野里砂, 和田芳郎, 真野利之, et al.
13. Carbamazepine服用中に赤芽球癆を発生した1例	共	1995年01月	日本小児科学会雑誌. 99(1):124	宇野里砂, 板垣裕輔, 藤井史敏, 田川哲三, 隅清臣.
14. GH分泌不全を伴ったBartter症候群の1例	共	1995年	Pharma Medica 13(9): 227-227, 1995	板垣裕輔, 藤井史敏, 宇野里砂, 田川哲三, 隅清臣.

その他

1. 学会ゲストスピーカー

--	--	--	--	--

2. 学会発表

1. 軽度知的障害と中等度難聴により言語発達遅滞を呈したと考えられる1症例	共	2017年10月18日～20日	第62回日本聴覚医学会総会・学術講演会	
2. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2016年06月1日	第27回日本小児科医会総会フォーラム	
3. 後天性脳損傷を認める学童の生活実態に関するアンケート調査(第1報)	共	2016年02月	日本小児科学会雑誌, 120巻2号, 230, 2016	
4. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2015年05月	第57回日本小児神経学会	
5. 病院における障がいをもつ子どものレスパイト入院についての検討	共	2013年11月	大阪府医師会医学会総会	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
6. 病院における障がいをもつ子どものレスパイト入院についての検討	共	2013年04月	第116回日本小児科学会	
7. 幼児期の発達障害児をもつ親のストレス評価	共	2012年05月	第54回日本小児神経学会	
8. てんかんなどの神経疾患児の予防接種に関する現状・意識調査	共	2008年09月	第55回日本小児保健学会	
9. 神経疾患をもつ児の保護者に対する予防接種アンケート	共	2007年07月	第49回日本小児神経学会	
10. 重心児の療育の現状について	共	2006年03月	第39回日本小児神経科学会近畿地方会	
<b>3. 総説</b>				
1. 軽度知的障害の医学的定義と診断の状況と課題について	単	2016年02月	知的障害福祉研究「さぼーと」, 709: 11-13, 2016	乳幼児期・学童期・学生期とライフステージに合わせた診断と対応について、また、地域の教育・福祉などの関係機関同士の効率的な連携をふまえた治療・療育・支援の必要性について概説した。
2. 子どもの脳 視覚の発達 Child's brain. Development of visual sense.	共	1999年09月	Brain Med. 11(3): 233-239	宇野里砂, 津本忠治.
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. (講演)	単	2017年12月03日	第13期FBMインストラクター養成講座	
2. (講演)	単	2017年11月01日	芦屋市子育て推進課 芦屋市立保育所 障害児保育	
3. (講演) 冬に向けて 子どもと家族の健康を守ろう!	単	2017年10月24日	子育てひろば講習会	
4. (講演)	単	2017年09月19日・9月26日	芦屋市幼稚園特別支援研究会	
5. (講演) 肢体不自由児・発達障害児などの運動発達と姿勢の発達	単	2017年09月08日	西宮市立西宮養護学校 特別支援教育研修会	
6. (講演) 呼吸と人工呼吸器	単	2017年09月04日	大阪府立茨木支援学校 医療的ケア研修会	
7. (講演) 運動発達を軸にみる子どもの発達と生活	単	2017年05月25日	芦屋市幼稚園・特別支援研修会	
8. (講演) 重症児の学校生活での呼吸・食事・姿勢のポイント	単	2016年10月28日	西宮養護学校 医療的ケア研修会	
9. (講演) 運動発達の要一体幹の支持性一	単	2016年10月16日	第12期 FBMインストラクター養成講座	
10. (講演) 学校生活で気をつけるべき身体のこと	単	2016年07月22日	大阪府立茨木支援学校 医療的ケア研修会	
11. (講演) 障がい者の身体の理解と関わり方	単	2015年10月25日	第11期 FBMインストラクター養成講座	
12. (講演) 子どもたちへの関わりポイントー子どものライフステージにあわせて	単	2015年03月03日	豊中市立しいの実学園 職員研修	
13. (講演) 小児在宅医療児の医療ケアの実際	単	2015年02月26日	大阪府立吹田保健所 地域における小児在宅医療支援ネットワーク構築事業「小児在宅医療児と家族への支援に関する勉強会」	
14. (講演) ちょっと気になる子どもたちへの対処法ー幼保のちからー	単	2015年02月06日	平成26年度 池田市公私立幼稚園振興協議会 研修会	
15. (講演) 障害のある子どもとともに学ぶ	単	2015年02月04日	平成26年度高大連携事業(高2生対象出張講義)	
16. (連載執筆) 「りさ先生の小児科診察中」(月1回)	単	2011年12月～現在	どりむ社 プンブンどりむ プンブンPartner	子どもの心身の発達、発育、健康、疾患について、保護者にむけて概説・執筆している。 2017年7月現在、第66回連載。(連載継続中)
17. (講演) 豊中市の運動発達遅滞児のフォロー・連携について	単	2008年03月	豊中市医師会学術講演	
18. (講演) 豊中市の運動障害を持つ児について	単	2008年02月	乳幼児健診従事者研修会	
<b>6. 研究費の取得状況</b>				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 障害児通所支援従事者ファーストステップ研修マニュアル作成および実施検証に関する研究		2015年04月01日	厚生労働省科学研究費 障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（身体知的等障害分野））（H27-身体・知的一般-004）	研究代表者

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年～現在	大阪小児科医会 理事
2. 2017年～	日本聴覚医学会
3. 2014年～2017年03月	日本特別ニーズ教育学会
4. 2014年～2017年03月	日本特殊教育学会
5. 2014年～	日本LD学会
6. 2007年～	日本小児科医会
7. 2007年～	日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会
8. 2007年～	日本ラクテーションコンサルタント協会
9. 2007年～	日本小児神経学会
10. 2006年～	Osaka Sleep Health Network
11. 2006年～	大阪小児科医会
12. 2006年～現在	大阪小児科医会 勤務医部会 障害児問題検討委員会
13. 2004年～	小児神経科学会近畿地方会
14. 2004年～	近畿てんかん研究会
15. 2004年～	日本医師会
16. 1996年～	日本神経科学会
17. 1994年～	大阪てんかん研究会
18. 1993年～	日本小児科学会
19. ～現在	豊中市医師会 小児科医会 理事